

第37回経営審議会 議事要録

日 時：平成28年3月24日(木) 14:00～16:00

会 場：北九州市立大学 本館 E-701会議室

出席者：石原理事長、近藤副理事長、利島理事、片山理事、梶原理事、江本理事
高宮委員、築城委員、熊谷委員

(オブザーバー) 中野(昌)監事、中野(利)監事、漆原副学長、柳井副学長

議 案

- 1 平成28年度計画案について
- 2 平成28年度予算案について
- 3 学部長等の業績評価について
- 4 地域創生学群の入学定員変更について
- 5 障害者差別解消法施行に伴う対応について

報 告

- 1 第3期中期計画(骨子案)について
- 2 教員の人事について
- 3 認証評価の結果案について
- 4 一般選抜結果について
- 5 平成27年度卒業予定者の就職内定状況について
- 6 入学試験の出題ミスについて
- 7 COC+事業 平成27年度の主な取り組み状況について

議案1 平成28年度計画案について

<質疑応答>

- KPI(主要業績評価指標)が明確に表示されているということによろしいか。それはおおむね達成できると考えているか。
- そうである。年度によって多少内容は異なるが、これまでの達成できた項目もそうでない項目もあり、その年の学生の質も目標達成に多少影響する可能性はあるが、しっかり取り組んでいきたいと考えている。
- 創立70周年記念行事の準備は全体的に進んでいるか。
- 問題なく進んでいる。各事業部会で準備を進めているところである。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案2 平成28年度予算案について

<質疑応答>

- 2点お尋ねしたい。1点目は平成27年度予算から大幅な変更点はあるか。もう1点は、耐震工事も終了し、創立70周年記念事業で新図書館や環境技術研究所の新建屋を設置する中で、今後施設の改修等で新たな費用が発生することはないか。
- 27年度予算と27年度決算見込みとの乖離の事か。
- そうである。比較対象が予算ベースになっているため、決算ベースと比較してどうかという事である。
- 決算では、支出のほうが予算の範囲内で執行するため、支出額が予算額に比べて少なくなる。また、施設の整備については、1号館や2号館が設置して50年近く経過しており、耐震改修工事は行ったが、そう遠くないうちに、これの大規模改修あるいは建て替えの話が出てくるのではないかと考えている。そのために、事務局で準備を進めていきたい。後ほどご報告する予定であるが、第3期中期計画の中で、キャンパスマスタープランを策定し、具体的な予算を含んだ内容で検討していきたい。
- 去年の決算の実績から今年予算を比較するとわかりやすい。

- 予算を作るときには、27年度の予算だけでなく、26年度の決算の数字も考慮して策定しており、決算の数字は反映できるところには反映している。
- 今事務局長から説明があったとおり、目的積立金については、1億円程度の取り崩し予定である。28年度は、4～5億円程度残る予定である。
- 予算の段階では約3億円の取り崩しとなっていたため、予定より2億円減少するのか。
- そうである。目的積立金の残高は、約6億円の予定である。
- 努力した成果が出てきているのではないかと考えている。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案3 学部長等の業績評価について

<質疑応答>

- 学部長業績評価は、中央教育審議会の審議により実施しないといけないという事になったのか、それとも本学が実施すると決定したのか。
- 基本的には義務ではなくて要望であり、学校教育法等に記載されていない。それは学長評価も同様で、国立大学で学長評価をしているところは知る限りまだない。本学の場合は、それを少し先取りし、他の先生方の評価も実施していることから、当然やるべきだという事で、大学の判断により決定した。学部長の選考は、本学では、各学部等から選挙で2名候補者を選出し、最終的には学長が任命する。学部長の評価に関しては、個人の評価ではなく、学部運営に関する評価で実施していきたい。これは年度計画の中にも記載しており、具体的に進めているという段階である。そのため、大変な作業となり、学長の業務量が増加することとなる。
- 先取りして事業を進めていくことは素晴らしいと思うが、学長の業績評価が大変な分量あったのを拝見すると、学長の業務量が多くなり大変ではないか。
- 実際にやってみないとわからないが、学長が9名の学部長等の評価を行うため、限界はある。どういう方法がいいかというのは、実施しながら検討していきたい。基本的には、先ほど年度計画の説明があったが、それに基づき、各学部運営の状況について4つの項目でチェックしていきたいと考えている。
- 10点のウェイトについては、どこに何点つけても構わないか。
- そこまでは決めていないが、学長との面談の中で、学長から修正を依頼する可能性はある。
- 基本的な考え方として、教員評価というのも数年前から実施しているが、その中で、各項目のウェイトの最低点は定めている。今回は9名の学部長等が対象となり、どの項目に力を入れたらいいかということに関しては、それぞれとの協議の中で決めていきたいと考えている。
- 今回のように、学長にある程度権限を集中させようという流れが文部科学省にある中で、今回の仕組みづくりと考えていいか。
- そうである。大学を統治するシステムをはっきりさせる、即ち責任体制を明確にするという事である。これまでは、教授会が大学の全てをコントロールするような因習があった。では、その場合、教授会の中で誰が責任を取るところなのか、個人ではない、学部長でもないという事になる。それで、責任体制を明確にしようということで、学校教育法が昨年4月1日に改正された。それに基づき、各大学は組織の責任体制というのを明確にしましょうという事になった。それで、今回、評価体制として、これまで学部長等に関しては行われていなかったもので、学長も評価されるので、学部長も実施することとなった。現在の学部長等を選考する際、今回初めて学長ヒアリングを実施したが、その際、将来は学部長業績評価を導入することを説明し、既にご理解いただいている。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案5 障害者差別解消法施行に伴う対応について

<質疑応答>なし

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

報告1 第3期中期計画（骨子案）について

<質疑応答>なし

報告2 教員の人事について

<質疑応答>なし

報告3 認証評価の結果案について

<質疑応答>なし

報告4 一般選抜結果について

<質疑応答>なし

報告5 平成27年度卒業予定者の就職内定状況について

<質疑応答>なし

報告6 入学試験の出題ミスについて

<質疑応答>なし

報告7 COC+事業 平成27年度の主な取り組み状況について

<質疑応答>

- ワークカフェの学生の参加人数が非常に少ないのではないか。
- この人数で会場は概ね埋まっている。
- 第1回目は学生が3名しか参加していない。
- ワークカフェを開始したのが試験終了後の時期だったため、学生が集まりにくかったこともある。しかし、会場の規模は10名程度であり、15名程度では多いという感じであった。アンケート結果を見ると、学生はおおむね満足して帰っている。
- 来年も継続して実施するか。
- そうである。